

2023年3月27日

一般社団法人
リサーチ・アドミニストレータースキル認定機構
事業運営会議 議長 和田 洋 殿

外部評価委員会
委員長 桑田 薫

2022年度実施の外部評価結果について（通知）

標記のことについて、貴機構の2022年の事業内容を記述した自己点検評価書を基に外部評価委員会として評価した結果を、別添のとおり通知します。

2022 年度外部評価書

評価対象期間：2022 年 1 月 25 日～12 月 31 日

(1) 評価結果

総合評価	URA スキル認定 機構の運営状況	URA 質保証制 度の実施状況	研修の実施状況	URA の認定の 実施状況
A	a	a	a	s

【総合評価】

- S：所期の計画を超えた取組が行われている
A：所期の計画と同等の取組が行われている
B：所期の計画以下の取組であるが、一部で当初計画と同等又はそれ以上の取組もみられる
C：総じて所期の計画以下の取組である

【各項目評価】

- s：高く評価できる
a：妥当である
b：やや不適切である
c：不適切である

(2) 評価コメント

・総括

評価対象期間において、一般社団法人リサーチ・アドミニストレータースキル認定機構（以下「機構」という。）は、URA スキル認定制度を協力して運営する、URA 関係の我が国の主たる 7 団体「（以下「関係団体」という。）」と連携し、Fundamental レベル及び Core レベルの研修並びに認定 URA の認定審査を本格的に開始するとともに、Advanced レベルの研修及び認定専門 URA の認定審査の試行について検討を行った。更に、自己点検評価のための自己点検・評価委員会、第三者評価のための外部評価委員会を各々設置するという点検評価の仕組みを構築する等、事業継続に向けた体制を構築している。

以上を踏まえ、本委員会は所期の計画と同等の取組が行われていると評価する。

今後は、次の 3 点について取り組むことを期待する。

- ・持続可能な自立した制度作りについて、検討すること。
- ・事業の実施で明らかになった課題を検証し、それに対する対応策を検討すること。
- ・外部評価委員会の役割として、事業の継続的な改善のための助言機関と位置付け、機構の取組を通じて明らかになった課題とその対応策を検証し、よりよい事業へと導く形成的評価の場とすることを検討すること。

・URA スキル認定機構の運営状況

機構の運営には、関係団体から推薦された者が、事業運営会議をはじめとする研修や認定審査に関する各会議体の委員として参画することで、オールジャパン的に協力を得る体制となっている。また、関係団体を通して大学等の研究機関のニーズの吸い上げや情報の伝達が行われる仕組みとなっている。更に、機構の事業運営に必要な各会議体の規程や手続き規程等が適切に整備されている。

評価対象期間において、機構は、Fundamental レベル及び Core レベルの研修実施並びに認定 URA の認定審査を行うとともに、Advanced レベルの研修と認定専門 URA の認定審査の試行を実施する為の準備を行った。また、事業実施における経費としては、文部科学省科学技術人材育成費補助金からの支出により職員の給与とシステムの維持費を賄いつつ、研修の受講料や認定審査の審査料を収入源として各会議体の委員や審査員に対して謝金の支払いを行っている。

以上を踏まえ、本委員会は機構の取組みは妥当であると評価する。

今後は、次の3点について取り組むことで、より良い制度の改善を期待する。

- ・事業の継続性という観点から、補助事業終了後の自立化を見据えた受講料・審査料を見直すこと。
- ・研修に関しては、受講期間の検討、URA 以外の研究支援に関係する事務職員や企業人と言った新しい層の開拓等を検討すること。
- ・制度の定着・普及の観点から、主として関係団体経由で行っている制度の周知方法について、より広げることを検討すること。

・URA 質保証制度の実施状況

機構は、各会議体の委員を関係団体から推薦された者で構成することにより、関係団体や関係団体に属する大学等のニーズに対応できる仕組みを構築している。

事業内容の改善については、研修及び認定審査終了後に、受講者及び申請者へのアンケートを実施し、その結果を研修委員会、認定委員会で議論することにより、より良い制度への改善に努めている。また、経費面では、受講料及び審査料等の料金負担について、事業運営会議が検討している。更に事業全体の実施状況を機構自ら点検し、事業内容をより改善する為に自己点検・評価委員会を設置するとともに、本事業の実施状況を第三者的視点から評価する為に外部評価委員会を設置している。

以上を踏まえ、本委員会は機構の取組みは妥当であると評価する。

今後は、次の2点について取り組むことで、より良い制度の改善を期待する。

- ・URA を雇用する側の意見を聴く機会を設けること。
- ・自己点検の体制として、明確な目標とそれを実現するための行動計画をたて、それに照

らした評価を実施すること。

・研修の実施状況

機構は、研修の実施に際し、研修委員会では科目群や科目の設定、シラバスの内容について必要な改善をすることになっている。また、教材、確認テストについては、各々研修委員会、試験委員会が点検作業を行い、質を担保している。

また、研修の受講者については、特に Fundamental レベルでは、URA に限らず URA 未経験者でも受講できるとしている。

以上を踏まえ、本委員会は機構の取組みは妥当であると評価する。

今後は、次の2点について取り組むことで、より良い制度の改善を期待する。

- ・ URA に限らず、潜在的な研修の受講者を想定し、それらが所属する機関への働きかけを行うなど受講者を更に増やすための工夫を検討すること。
- ・ 上記に関連して、求められるプログラム内容と提供形態についても検討すること。

・URA の認定の実施状況

機構は、認定 URA の認定審査では、各申請者に対して5名の審査員が書類審査を行う体制を構築している。また、認定否となった者で不服のある者には、審査委員会や認定委員会とは別に、不服審査委員会による不服審査を行う仕組みを整備している。

以上を踏まえ、本委員会は体制としては十分構築されていると判断し、取り組みを高く評価する。

今後は、次の点について取り組むことで、より良い制度の定着を期待する。

- ・ 審査及び認定の実施過程で得られた教訓を蓄積する仕組みを検討すること。

外部評価委員会委員名簿

氏名	所属	役職
磯谷 桂介	学校法人中部大学	副学長・理事長補佐
○桑田 薫	国立大学法人東京工業大学	理事・副学長（ダイバーシティ推進担当）
田原 敬一郎	公益財団法人未来工学研究所	主任研究員

（敬称略・五十音順）

※○は委員長